



アクサス海軍基地で挙行政された、DOGU AKDENIZ2013演習に参加した警備艇「カジュ」。  
トズラ級の9番艇で、2013年9月に就役したばかりの最新鋭艇だ。ステルス設計を取り入れて  
建造され、船体形はオーストラリア海軍のアーミテル級警備艇によく似ている

## 最新鋭のステルス艇 続々就役中!

# トルコ海軍哨戒艇「キョイジェーイス」

2007年3月、トルコ政府は新型警備艇プロジェクトに基づいて、16隻の新型警備艇の建造契約を結んだ。これはこれまで運用されて来た、カルタル級ミサイル艇を代替するためのものである。1番艇の「トズラ」は、2008年5月にイスタンブールの南、トズラにあるデアサン造船所で建造が開始された。

「トズラ」は2010年4月に進水し、2011年1月9日に就役した。最終16番艇は、2015年の第一四半期に就役する見込みとなっている。今回取材することのできた「キョイジェーイス」はトズラ級の3番艇で、「トズラ」からはほぼ半年遅れ、2010年11月11日に進水し、2011年8月12日に就役した。

トズラ級の全長は56.9m、全幅は8.8m、深さは2.5mで、満載排水量は420tである。浅喫水で沿岸水域での行動に適している。いっぽうトルコ海軍では、シーステート4(波高2.5m)ですべての任務の達成が

可能、シーステート5(波高4m)で主要な監視任務の達成が可能という、航洋性を要求している。

また、もうひとつの特徴として省力化が求められており、乗員数わずか35名で運用される(プラス12名を収用可能な余積がある)。このためブリッジおよびデッキオペレーションの効率化のために、インテグレートド・ブリッジ・システムが搭載されている。これにより通常航海中は、艦橋のわずか3名の乗員で運用可能となっている。



アセルサン6連装対潜ロケットランチャー。向こう側にはもうひとつ、  
これまた古典的な対潜用の爆雷投下機架2基が装備されている

トズラ級の完成は、トルコ海軍による任務に合わせて適切な装備を施した、先進的プラットフォームを完成させる能力を示すものといえるだろう。これらの艇はトルコの領海内および排他的経済水域において、監視、臨検、警備ミッションに使用することが予定されている。



船首に配置された、主砲のOTOメララ40 / 70コンパクト40mm  
連装砲。発射速度は毎分600発。水上、沿岸目標の他、限定的な  
対空能力も有する



12.7mm STAMP安定化機関銃。リモートコントロール式で銃座は  
安定化されており、不審船舶等水上の小目標にたいして使用され  
る。左右に2基が装備されている



12.7mm STAMP安定化機関銃用、多機能コンソール。というか  
まるでTVゲームのコントローラーの趣だ。機関銃は完全に無人で、  
艦内からIR映像により照準、射撃される



「キョイジェーイス」の航海艦橋。トズラ級は、インテグレートド・ブリ  
ッジ・システムにより、最小わずか3名で運用できる